CWAJ/VVI Newsletter 2021年　秋号

目次

1. ご挨拶～スイカの進化

2. CWAJチャリティーコンサート延期のお知らせ

3. 世界的なヴァイオリニスト川畠成道（かわばた　なりみち）インタビュー

4. 2021年度CWAJ奨学生のご紹介

5. 2022年度CWAJ 視覚障害学生奨学金のお知らせ

6. 第64回CWAJ現代版画展特別企画～版画家宮山加代子（みややま　かよこ）による

アーティスト・トーク

7. 編集後記

CWAJ = College Women’s Association of Japan

SVI-SA = Scholarship for the Visually Impaired Study Abroad （視覚障害学生海外留学

奨学金）

VVI = Volunteers for the Visually Impaired （視覚障害者との交流の会）

1. ご挨拶～スイカの進化

皆さんこんにちは。とんでもなく暑かった今年の夏も、少し終わりが見えてきた今日このごろ、いかがお過ごしでしょうか？

突然ですが、私はスイカが大好きで、毎夏おいしくスイカをいただいているのですが、今年は特にスイカをたくさん食べる機会に恵まれました。そしてたくさんのスイカを食べたことで、スイカも社会に合わせて日々進化しているのだということを感じました。まずはそのサイズ。私が子供の頃から小玉スイカというバレーボールくらいの大きさのスイカがありましたが、当時それらの味はあまり魅力的なものではなく、やっぱりスイカは大きいもの（たぶん直径25cm以上くらいでしょうか）じゃないとねという感じが私の周囲にはありました。しかししかし、最近の小玉スイカは大きい物に負けず劣らずとっても美味しいのです！もっと言えば、皮がとても薄く、食べ終わったあとのゴミも少なくて済むというすぐれものです。行きつけにしているスイカ農園の方に聞いたところ、最近はやはり核家族化が進んでいたり、また冷蔵庫に入れられるようにということで、小玉スイカのニーズが増えているとのこと（でもお盆の時期には、人が集まるから/贈答用などで大きなスイカも売れるので、消費はおおよそ半々くらいかなということでした）。そのスイカ農園に「独り占め」という商品名の小玉スイカがありました。世の中を表していますよね（「一人ぼっち」ではないところが名付けた方の感性の優しさだなあと思いました）。

もう１つは、種の進化です。種をいちいち出さなくてもよいスイカ（種を食べてしまってもよいスイカ）と言うのがあるのです。その種は、例えば、きゅうりの種のようにとっても水っぽくて食べても種だと分からないような種類のものもあれば、種であることは分かるのですが、とても小さい種（普通のスイカの種の1/3くらいでしょうか）で歯ごたえがちょっとカリッとしていて、いいアクセントになるようなものなど、私がこの夏食べただけでも２種類ありました。たしかに、スイカは種を出すのがめんどうという人もいますし、また食べるシチュエーションによっては、盛大に種を吐き出すのはちょっとはばかられるということもありますよね。ドドーンとしていて、世の中の流れには動じていないように見えるスイカですが、社会のニーズに合わせて日々進化しているのですね。おもしろい発見でした。尚、上記は、とても個人的な見解であることをご了承下さい。

さて、前置きが長くなりましたが、VVI Newsletter 秋号をお届けいたします。

今回は、世界的なヴァイオリニストへのインタビューや、2021年度CWAJ奨学生のご紹介、秋のイベント案内など盛り沢山です。どうぞお楽しみ下さい！

尚、本Newsletterは下記CWAJのホームページでもお読みいただけます。

<https://cwaj.org/jp/education/volunteers-for-visually-impaired/>

2.　CWAJチャリティーコンサート延期のお知らせ

VVI Newsletter 春号でお知らせした、この秋（11月）に開催を予定していた世界的なヴァイオリニスト、川畠成道さんによるCWAJチャリティーコンサートは、新型コロナウィルス感染拡大の状況を考慮し延期が決定いたしました。ご予定に入れて下さっていた方々には大変申し訳ありませんが、ご理解いただけますようにどうぞよろしくお願いいたします。延期後の日程は以下になります。

川畠成道ヴァイオリンコンサート

日時：2022年3月21日(月) 14:00～17:00

(開場: 13:30、開演: 14:00)

会場： 自由学園、明日館（じゆうがくえん　みょうにちかん）

東京都豊島区西池袋2-31-3　（JR目白駅から徒歩7分）

チケット販売についてなど詳細情報は、次回のNewsletterでお知らせする予定です。より安心できる環境で、すばらしい音楽を皆さんと楽しめる日がもどって来ることを願っております。

チャリティーコンサート委員会

3. 世界的なヴァイオリニスト川畠成道さんインタビュー

前項でお知らせいたしました、来年3月に開催予定のチャリティーコンサートで演奏をして下さる、世界的なヴァイオリニスト川畠成道さんに、この度インタビューをさせていただくことができました。

はじめに、川畠さんのプロフィールをご紹介させていただきます。

８歳の時、川畠さんは旅行先のアメリカで服用した風邪薬が原因と思われるスティーブンス・ジョンソン症候群に見舞われ、命が危ぶまれる時もありました。献身的な医療スタッフの治療により回復されたのですが、視覚に障害が残ってしまいました。ヴァイオリンの先生をされていた成道さんのお父様は、視覚に障害があっても将来できる仕事を、ということで、ヴァイオリンの演奏家として成道さんを育てようと決意されました。プロのヴァイオリニストを目指すにはちょっと遅い10歳という年齢ではありましたが、家族一丸となっての猛練習がそこから開始されたとのことです。　桐朋学園大学卒業後、英国王立音楽院へ留学。1997年、同院を同院史上２人目となるスペシャル・アーティスト・ステイタスの称号を授与され、首席卒業されました。翌年、東京サントリーホールにおいて小林研一郎（こばやし　けんいちろう）指揮、日本フィルハーモニー交響楽団との共演でデビューされました。その後、英国と日本を拠点にソリストとして精力的な活動を行っておられます。（川畠成道さんオフィシャルサイトより）

--------------

川畠さんは世界的に活躍されている演奏家でおられるので、私は非常に緊張してインタビューに臨みました。しかし、そんな私の緊張も川畠さんはほぐして下さりつつ、一言ひとこと丁寧にお話をして下さいました。

以下は、おうかがいした川畠さんのお話を安原理恵（やすはら　りえ）が記事にまとめたものです。

～～～～～～～～

●コンサートについて：

私は、コンサートでは、皆さんに楽しんでいただけるように、そして今まで触れたことがなかった方にはクラシック音楽を好きになっていただけるきっかけになればと思って演奏しています。ですから演奏する曲目は、それぞれのコンサートに来て下さる方々を意識し、コンサートの趣旨に合わせて自分自身が届けたい曲も入れるなどして、なるべくバラエティーに富んだ曲を演奏するようにしています。

私は楽譜を見ながら演奏ができませんから、すべて練習段階で暗譜します。しかし、どうしても昔覚えた曲というのは忘れてしまうこともあります。その時はまた覚え直し、その後コンサートで演奏できる曲として作り上げて行きます。それでも、不思議なもので、若い頃覚えたものは比較的きちんと覚えているのです。　これは「中学校の時に覚えた英単語は覚えているけど、大人になってから勉強したものは・・・」と似たところがあるかもしれませんね。

コンサートはまず日時が決まり、それに向けて関係者との調整や自分自身の練習などと、準備を進めて行くわけですが、思い通りに進まない事ももちろんあります。また、思い通りの演奏ができず落ち着かないということもあります。しかしそのように思い悩む時間があることも自分自身が次のステップへと成長して行くチャンスだと捉えています。

●パートナーのヴァイオリンのこと：

現在使用しているヴァイオリンとは約25年前にロンドンで出逢いました。恩師から「楽器を選ぶ時は一目惚れでないといけない。まだ迷う気持ちがある時にはそれはやめたほうがよい。」と言われていました。私は楽器屋でこのヴァイオリンを弾いてみて、比較的すぐに購入を決めたので、恩師の言葉を借りれば一目惚れして決めたということになるでしょうか。手に入れた直後と今では楽器の音が変わってきていますし、まだまだこの楽器には私が知らない可能性が秘められているように感じています。日々楽器に育てられています。私のヴァイオリンは1770年製です。これはベートーヴェンが生まれた年でもあります。ヴァイオリンはとても繊細な楽器ではありますが、それだけ長い期間生き残ってきたという強さも持ち合わせていると思っています。

●チャリティーに寄せる思い：

まず、自分は本当に多くの方々に支えて頂いて生きて来られているから、演奏を続けられているということがあります。アメリカで病気になった時にケアしてくれた医療従事者の皆さんやボランティアの方々、演奏家になるまで、そしてなってからの活動を支えて下さっている関係者の皆さん、演奏会を聴きに来て下さる方々、そして家族など、並べ始めるときりがありません。私に与えられていることは、演奏するということなので、それを通じて少しでも支えて下さる皆さんに、そして社会にお返しができたらと思い取り組んでいます。

自分自身が視覚障害者となりヴァイオリンに出会い、世界中あちこちに出かけて多くの方々に演奏を聴いていただいている中で、障害など、様々な事情でコンサート会場に行きたくても行くことができない方がおられることを知りました。それでしたら、こちらが施設などに出向いて行くということで、より多くの方々がクラシック音楽に触れていただくことにつながるのでは、と、施設などを訪問しての演奏も行っています。チャリティーコンサートの中にはもう２０年程続いているものもありまして、初回のころには小さかったお子さんが、今では立派に成長されているというようなこともあります。そのように長く続けさせていただいているコンサートからは、通常のコンサートとはまた違う力をこちらが頂いています。クラシック音楽をきちんとした環境で聞いていただくことができる状況であれば、可能な限り、チャリティーのご依頼はお受けするようにしています。そのような機会を与えられているからこそ社会にお返しする演奏活動ができている事にも、またとても感謝しています。

●コロナ下での時間を有効活用：

ご多分に漏れず、私の関わるコンサートもほとんどが中止/延期となり、家にいる時間がほんとうに長くなりました。差し迫ったコンサートに向けての準備をする必要が格段に減りましたので、音楽家としての長い人生を考え、今やっておくべきこと、例えば演奏技術や表現力の向上など、そういう事に取り組んで時間を過ごしています。また遠い昔に演奏した曲を久しぶりに取り出してみて、懐かしく演奏をすることもありますね。

●経験のすべてが音楽に返って来る：

音楽以外のことに触れることもとても大切にしています。例えば、まったく違う分野、天文学や歴史学の本を読んだりテレビを見たり。そのような一見して音楽には関係ない経験も、何かしらの形で音楽に影響を与えると思っているからです。また音楽については、昔はヴァイオリンの技術を向上させることだけに注力していましたが、最近では他の音楽にも興味を持つようになり、音楽という大きなものの中の「ヴァイオリン」というように見られるようになりました。そのことで、今まで以上にヴァイオリンに楽しく関われるようになったと感じています。

生きていれば大なり小なりうまく行かないことはあると思います。その時々にできることを１つずつこなして行く、時には少し休む、または自分から少し離れたところから自分自身を捉え直してみる、などいろいろな対処法があるかと思います。何が正解なのか自分では分かりませんが、それでも演奏家として続けて来られていますので、今後も周囲への感謝を持ちつつ、自分なりに精一杯活動して行ければと思っています。

～～～～

インタビューに先立ち、私は川畠さんが書かれた本「僕は、涙の出ない目で泣いた。―視力障害の天才ヴァイオリニストがつかんだ人生の光（扶桑社、2000年12月発行）」を読ませていただきました。アメリカで病気になられた時のこと、ヴァイオリンの猛練習生活、イギリスに留学されてからの大変だけれども楽しいエピソードがたくさん詰まった日々、そしてヴァイオリニストを目指し続けてきた中で考えられてきたこと、等がとても分かりやすい文章で書かれています。　皆さんにもお奨めしたい一冊です。

そして、川畠さんの以下のオフィシャルサイトより、発売されているCDや出版されている書籍・演奏会の予定や詳しいプロフィールをご覧いただけます。

<http://www.kawabatanarimichi.jp/index.html>

最後に、今回のコンサートの実現のためのCWAJサイドのキーパーソンの一人は、CWAJメンバーであるNaomi Roberts（ナオミ　ロバーツ）です。彼女には、喜谷昌代（きたに　まさよ）という叔母がおり、喜谷さんは生涯を通じて世界中でチャリティー・ボランティア活動をされていました。イギリスに永住し、２年前に他界された喜谷さんは、川畠さんがイギリスに留学中、サポートをされていたそうです。喜谷さんのご存命中、Robertsは喜谷さんと共に、CWAJとは別の慈善団体のためのチャリティーコンサートを企画し、川畠さんに出演して頂きました。そのようなご縁を通じて、チャリティーコンサートを精力的に行っておられる川畠さんに、今回、私たちの奨学金基金のためのコンサートをお願いしたところ、快くお引き受け下さり、コンサートが開催できることとなったのです。来年の3月、川畠さんが届けて下さる音楽の元に、皆さんと素敵なひとときをご一緒できますことを心から願っています。

4. 2021年度CWAJ奨学生のご紹介

コロナ禍による行動制限の中、5月19日に2021年度CWAJ奨学生の紹介が昨年同様

オンラインで行われました。会場での開催と比べ、オンラインは日本国内のみならず

海外のメンバーや友人、各分野で活躍中の歴代CWAJ奨学生など総勢160名近い参加があり、共に豊かな時間を過ごすことができました。NBAワシントンウィザーズで活躍する八村塁（はちむら　るい）選手やライシャワーセンター所長のカルダー氏からもサプライズビデオメッセージが届き、奨学生にとっても思い出に残る授賞式となりました。

今年のスピーカーのひとりは2011年度SVI-SA奨学生の福地健太郎（ふくち　けんたろう）さんでした。英国、サセックス大学に留学してマイノリティの今日という問題を学んだ福地さんは、現在はJICAに勤務されて発展途上国への支援に活躍されています。

2021年度視覚障害学生奨学金は、菅田利佳（すがた　りか）さんと、山田翔登（やまだ　しょうと）さんに授与されました。

菅田さんは現在東京大学教養学部総合自然学科の3年生です。ご自身の経験を通じて教育が人間形成に果たす役割の大切さを実感し、将来は誰もが望む場所で十分に学べるように貢献したいと考えています。学業の傍ら、幼いころから学んでいるピアノの演奏活動で人をつなぐ音楽の魅力も伝え続けたいと思っています。

山田さんは同志社大学法学部に在籍しており、刑法や国際法を学んでいます。大学卒業後は大学院に進学して、日本法と外国法を正しく運用するスキルを身に着けてより良い社会を作るために企業の法務部で活躍したいと考えています。2020年東京オリンピック開催にあたり、地元奈良県の聖火ランナーとして未来に向かって走って行く山田さんの姿から大勢の人がパワーをもらったと思います。

海外留学女子奨学金は今年も2名に授与されました。

末村萌（すえむら　もえ）さんは留学先の米国、コロラド大学で航空宇宙工学の勉強を続けます。宇宙研究に役立つための開発を学び、将来的には、ロボットを利用して宇宙開発を加速させ、安全かつ安価に宇宙を旅できる世界を作ることを目指しています。

曾根麻里（そね　まり）さんはベルギー王国ルーヴェン・カトリック大学で心理学を学んで、今後は科学的根拠をもとに人々の心の健康の水準をあげる為には何が必要か、ご自身の学びや経験を通して模索する予定です。

CWAJは昨年、コロナ禍で経済的苦境にある看護学生を支援するCWAJ看護学生奨学金を創設し、本年度も次の6名の方に支給しました。

早川明花（はやかわ　めいか）さん神奈川県立保健福祉大学福祉看護学科3年

柿本真尚（かきもと　まなか）さん国立看護大学校看護学部3年

小椋玲美（こむく　れみ）さん埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科3年

松下らむ（まつした　らむ）さん聖路加国際大学看護学部3年

大山天良（おおやま　たから）さん横浜市立大学医学部看護学科3年

山口優（やまぐち　ゆう）さん国立看護大学看護学部4年

CWAJ奨学金委員会

5. 　2022年度CWAJ 視覚障害学生奨学金のお知らせ

CWAJでは2022年度も下記のように奨学生を募集します。

・視覚障害学生海外留学奨学金　1名　300万円（過去にCWAJ視覚障害学生奨学金を受けられた方でも応募できます）

・視覚障害学生奨学金　2名　各150万円

本年度よりオンライン出願になります。詳細・募集要項などはCWAJウエブサイト

<http://cwaj.org/jp>をご覧ください。応募をお待ちしております。

質問などありましたら、[scholarship@cwaj.org](mailto:scholarship@cwaj.org)　までお問い合わせください。

CWAJ奨学金委員会

6. 第64回CWAJ現代版画展特別企画～版画家宮山加代子（みややま　かよこ）によるアーティスト・トーク

昨年は新型コロナウィルス感染症の流行のために、例年通りの「ハンズ・オン・アート」プログラムは実施できませんでしたが、新しい形の「ハンズ・オン・アート」、版画家廣田雷風（ひろた　らいふう）によるアーティスト・トークをオンラインにて開催しました。

今年は、宮山加代子氏をお招きし、アーティスト・トークを10月23日10時よりオンラインにて開催致します。

宮山氏は、四季折々の美しい花や木などをモチーフにした優しい発色の木版画を数多く制作しています。視覚に障害のある参加者の方には、事前に今年の宮山氏の出展作品「マグノリア」の立体コピーをお手元にお届け致します。宮山氏がお届けする「季節を彩る木版画の世界」をお楽しみください。

宮山氏は、1990年よりCWAJ版画展に出品しています。

著書に『花の木版画』、『美しい花の木版画』、『木版画を作ろう』があります。

皆様のご参加をお待ちしております。詳細については、後日お知らせいたします。

Hands-on Art委員会

7.　編集後記

皆さん、今回もNewsletterを最後までお読み下さりありがとうございました。

年々暑さが増している夏、今年もご多分に漏れずでしたね。でもきっと秋の涼しさももうすぐそこでしょう（と願いたいですね）。芸術の秋、読書の秋、食べ物の秋・・・。皆さんは今年はどんな秋を過ごされるでしょうか。皆さんがそれぞれすてきな秋を過ごされますように。またNewsletter冬号でお会いいたしましょう。

「○○のような記事が読みたい」、「英語の記事を増やしてほしい」など、何かリクエストがありましたらぜひ以下までご連絡下さい。Newsletterの感想も大歓迎です。

また、メールでのNewsletter の受け取りをご希望の方も、下記にご連絡下さい。

(連絡先)

VolunteersVI@cwaj.org

Newsletter Editor（編集担当）：安原理恵

Distributor（発送担当)：本村理子（もとむらみちこ）